2009年度
インターンシップ・プログラム
実施報告書

大学コンソーシアムえひめ
インターンシップ部会

ごあいさつ

2009年度インターンシップ研修実施のお礼と来年度の取り組みへの協力のお願い

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会　2009年度部会長　髙橋　治郎
（愛媛大学インターンシップ委員会委員長、教育学部教授）

2003年に発足しました愛媛県内４大学間インターンシップ連絡協議会が、今年度から「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」と名称が変わり運営されましたが、皆様方にはこれまでと同様に多大なご支援とご協力をいただきました。ありがとうございました。本年度は、４大学全体で昨年度より約100名多い355名の学生が研修を受けさせていただきました。４大学の教職員を代表し、心からお礼を申し上げます。

おかげさまで、研修を受けた学生諸君の大半は、インターンシップ研修に満足し、高く評価しています。それらの一例として、本実施報告書に各大学から研修レポートの抜粋「参加者の声」を掲載させていただきました。学生諸君は、アルバイトとしてではなく研修カリキュラムに沿って、指導を受けながら企業や事業所、団体等で研修を受け、働くということがいかに責任を伴い、大変であるかを身をもって体験してきました。この体験を通して、自分にはどういう技能や知識等に問題があるのかを知り、大学に戻った際の勉強の指針を見いだしてきました。研修から帰り、意欲を持って勉学に取り組もうとする学生諸君へ、私ども大学関係者は、これに応える教育をおこなうとともに、社会へ送り出す学生のさらなる質の向上に努める所存です。

さて、インターンシップ部会では、インターンシップ事業計画説明会やインターンシップ研修受け入れプログラム合同説明会、拡大懇談会などを通して、研修を受け入れていただける皆様方と情報を相互に交換し、本研修がより良きものになるよう努めて参りました。これらの成果は年を追うごとに向上していると思います。今後とも学生を送り出す私ども大学側と、受け入れていただきます企業や事業所、団体等の皆様方双方に有益なインターンシップ研修となりますよう、さらなる質的向上を目指して努力してゆきたいと考えています。どうぞ来年度もご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

これまでの経緯

1997年
「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」が発表される

→

2003年
「愛媛県内４大学間インターンシップ連絡協議会」設立

→

2009年
「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行

1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以後、「失われた10年」はこれまでの日本型システムの多くを変容させ、特にその当時、新卒学生の就職状況が悪化する中で、フリーターやニートといった若者雇用問題が大きな社会問題となっていました。

そのような中、1997年９月、当時の文部省・通商産業省・労働省の三省は合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」を発表しました。在学中に就業体験を行うというこれまでの学校教育にはない新しい取り組みが政策レベルで模索され始め、今日では多くの高等教育機関でその実践が展開されています。

愛媛県内の高等教育機関でも独自にインターンシップを教育課程に取り入れてきましたが、無差別な受入要請が地域におけるマッチング秩序を混乱させるという事態が発生しました。2003年、受入先等の要望もあり、愛媛県中小企業家同友会の協力を得て、県内４大学（愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学）が中心となり地域における大学生のインターンシップを統一的に運営するため、「愛媛県内４大学間インターンシップ連絡協議会」が設立されました。

2009年には、愛媛県内で大学コンソーシアムができ、「愛媛県内４大学間インターンシップ連絡協議会」は「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行しましたが、設立当初からの目的、また地域の各組織との連携関係を変えることなく、事業を展開しています。

インターンシップとは

前述の「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」の中で、インターンシップは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義づけられています。日本ではインターンシップという名称が本格的に使われだしてまだ10年ほどです。インターンシップは、学生・大学・受入先それぞれが協力してメリットを探りながら理想のかたちを作り上げていかなければならない、まだまだ歴史の浅い取り組みなのです。

複雑化する現代社会においては、学校と企業・団体が分離したままの状態では若者の育成を担える状況ではなくなってきています。特に地域社会においては、大都市部ほど潤沢な資源と機会があるわけでなく、地域社会に存在するあらゆる教育資源の新結合を行い、地域の実情に即した人材育成システムの構築が求められています。

インターンシップは、学生が在学中に就業体験を行うことを通じて、それを実現していくための取り組みです。大学を卒業する前の段階から職業に対する理解と実感を得て、学業に励む学生が増えることでミスマッチの解消や地域の人材育成における産学連携が大いに期待できます。

インターンシップの受け入れに際して

インターンシップを実施することは、学生や大学にとってだけでなく、受入先にも大きな効果があります。しかし、インターンシップ受け入れの目的やプログラムが明確でないと負担感だけが残ってしまいます。また、学生にとっても達成感が得られず、結果的に双方にとって不幸せな結果となってしまいかねません。

ここではインターンシップ受け入れ目的の明確化やプログラム開発の参考になるような指標をご紹介したいと思います。

（1）インターンシップ受け入れ目的の例

①学生への会社の認知度を上げる
②社内の人材育成
③事業に学生（若者）の発想や視点を取入れる
④社内活性化
⑤社会貢献
⑥大学との関係強化
⑦学生の意識の把握

もちろん、これらはあくまで一例の域を出ません。また、目的は１つに限られるものではなく、複数の目的の下にインターンシップを組織戦略として利用していくことも可能です。

（2）プログラム開発の５原則＋α

①業務の閑散期や受入部署がスケジュール調整可能な時期に導入する
②オリエンテーションは必ず取入れる（社内ルールの事前確認、目標、役割の確認を行う）
③座学と実習・実践を織り交ぜる（受入部署・担当者の負担軽減がはかれ、学生にとっても多様な経験ができる）
④インターンシップ生の日々の取り組み内容を振り返させるツール（日報など）を利用する
⑤アルバイトとの違いを明確にする（単純作業のみを担当させるのは避ける）

インターンシップのプログラムは、受け入れ先と学生の双方にとって無理なく目的が達成されるように段階的なものを作成する必要があります。そのためには、プログラムは、準備期間→実務期間→完成期間と段階的に作成していくのが効果的です。

また、そのプログラムを受け入れの前に学生に提示し、コンセンサスの形成をはかっておくことも重要です。さらに、研修の成果が目に見えるかたちで残るようなものであれば（成果の具現化）、学生の達成感も増します。

（参考）平尾智隆＋NPO法人Eyes編『成功するインターンシップの受入れ方STEP10－インターンシップで組織を変える！』えひめ若年人材育成推進機構、2009年。（入手については、愛媛大学就職支援課までご連絡ください。無料で送付します。）

2009年度インター

今年度も県内４大学に在籍するたくさんの学生が
受け入れ企業向けの事業計画説明会を始め、年間

事業計画説明会

事業開始の恒例行事として、受け入れを予定している企業や団体等に向け、プログラムの説明会を開催しました。

合同説明会

愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学と松山東雲短期大学に在籍する400名余りの学生が参加。受け入れを表明し、説明会に参加した企業や団体のプレゼンテーションを受けた後、思い思いに個別面談ブースをまわって研修内容の説明などを受け、熱心に質問をしていました。

年間スケジュール

3/9（月）

4/14（火）
インターンシップ受入プログラム合同説明会への参加の有無とインターンシップ研修生受入プログラム内容に関するアンケート送付

5/8（金）
アンケート等の締め切り

6/6（土）

6/（月）
各大学か
研修申込
研修希望

インターンシップ研修期間

※前期試験終了後から９月

参加者の声

愛媛大学 法文学部総合政策学科３年　南 佳織
研修先：有限会社オルネット

私がインターンシップへの参加を決めたのは、大学以外の場で新しい体験を得られる良い機会と考えたからです。それまであまり積極的に行動しておらず、行動範囲が狭くなりがちだった自分を変えたい思いもありました。実際、研修を行っていくと、企業の方々から学ぶことがいくつもあります。例えば、周りへの気配りや自分で考え動く姿勢、仕事をやり遂げる責任感などです。こうした発見は、自分に足りないものに気づくきっかけとなり、その後の生活や考え方に影響を与えてくれました。

また、人との出会いの大切さが実感できるのも、参加してよかったと感じる理由の１つです。研修先の皆さんに親切にしていただいたことが今も心に残っています。働く動機は、お金ややりがいだけではないのだと気づくことができました。仕事に関することに限らず、たくさんの刺激を受けるチャンスが研修の中にはあります。その時感じたことを忘れず、また新たな出会いや経験を求めて、残りの学生生活を過ごしていきたいです。

参加者の声

松山大学　法学部３年　高橋 一実
研修先：松山市役所秘書課

私は松山市役所で、２週間インターンシップをさせて頂きました。働くことへの現実味を持つと同時に、いかにコミュニケーションを取ることが大切か分かりました。

研修中に多くの方と接していく上で、必ず初めにすることは挨拶でした。たった一言ですが、それである程度のコミュニケーションを取ることができます。

挨拶がきちんとできることで、会話も受身ではなく、積極的に話すことができ、コミュニケーションを図れました。さらに研修中にいろんな人に会って自分の経験値を増やし、人と人との繋がりを大切にすることも学べました。

今回のインターンシップを通して、働くことへの意識を高め、職業選択の幅を広げることもでき、とても充実したものになったと思いました。

ンシップ研修報告書

が参加し、インターンシップ研修が行われました。
間を通じた研修事業の状況をご報告いたします。

拡大懇談会

その年度の事業内容を総括するため、毎年この時期に開催。今年度は研修生を受け入れた23企業・団体のご担当者に参集いただきました。代表の４企業・団体のご担当者をパネリストに招きシンポジウムを行い、事例の紹介や印象的な出来事など受け入れ側ならではのお話をいただきました。

年間スケジュール

29
ら学生の
書を
先へ送付

7月
上旬
研修希望先での面接

8月～
9月

9/11
金
インターンシップ研修生受入企業へのアンケート
（回収数68／配付数81）

11/10
火

月授業開始まで（４大学合計355名が66の企業・団体で研修を受ける）

参加者の声

松山東雲女子大学　国際文化学科３年　越智 安理
研修先：NPO法人アジア・フィルム・ネットワーク

『ＮＰＯ法人アジア・フィルム・ネットワーク』での研修では、自分のためでなく、誰かのために働くということを経験しました。オリジナル企画をインターンシップ生で行い、自分たちの企画したお店で、お客様が楽しめるよう笑顔になるよう、ひとつひとつ考えていきました。

その中で、相手の立場になって考えることをし、満足のいく新しい物を作り出すということの難しさを実感しました。皆の笑顔を作るためには、実はそれまでに多くの時間や人々の努力が必要であることを知りました。そして何よりも、自分が努力し、力を入れた分、もしくはそれ以上を相手は返してくれ、他人のために行っていたことでも、最後には自分の満足にも繋がり、幸せになっていくのだと感じました。様々な人と出会い、同じ学生同士でお互い刺激し合い、高め合っていけたと思います。

自分が「働く」ということの中に求めているものに気付き、触れることが出来、本当に良い経験となりました。

参加者の声

松山東雲短期大学 秘書科２年　高野 紋圭
研修先：愛媛県立上浮穴高等学校

私は、インターンシップに参加し、就職活動を目の前にして実際に社会に出て働くということがどれほど厳しく、責任のあるものかということを知りました。研修生ということもあり、ミスをしても強く叱られたことはありませんでしたが、社会に出たらそんなに甘くないと思います。

たくさんの種類の仕事をさせて頂きましたが、どの仕事にも正確さが必要であり、一つ一つの仕事の責任はとても重いということを知りました。また、コミュニケーションが取れてこそ効率の良い仕事が行われるということを実際の職場を見て感じ取ることが出来ました。働くことは、自分の行動に責任を持って信頼されることではないかなと思います。５日間の研修で学んだことを活かし、これからの日々を無駄に過ごすことなく必死にがんばりたいと思います。

インターンシップという貴重な体験が出来たことを感謝し、この気持ちを忘れず今後も学業に精進していきたいです。

2009年度受け入れ先アンケートの分析結果

調査概要

2009年９月に「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」がコーディネートする４大学生（愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学）のインターンシップに受入を表明して頂いた81の企業・団体の受入担当者宛に調査票を郵送で送付しました。回答は、愛媛大学就職支援課へＦＡＸでお願いし、68の企業・団体から返信があり、回収率は84％となります。

調査項目は、受け入れ期間・人数といった基本的状況、受け入れたことで得られた効果の自己評価等です。

相関係数による分析

調査では、「インターンシップ研修生を受け入れて得られた効果」、例えば「インターンシップ研修生を受け入れたことで職場が活性化した」という質問にたいして、非常にあてはまる（５点）～全くあてはまらない（１点）の５段階で評価してもらっています。

また、「インターンシップの総合評価」についても、非常にメリットがあった（５点）～全くメリットがなかった（１点）まで同じく５段階で評価してもらっています。

以下の表では、それぞれの得点について、相関係数の計算という統計的処理をしています。係数はマイナス１～プラス１の値をとり、係数の絶対値の大小が２変数間の関係の強さを表します。係数の値がゼロに近いと２変数間に関係はないということになります。係数が正の値だと、片一方が増えればもう片一方も増えることを意味します（正の相関）。係数が負の値だと、片一方が増えればもう片一方は減ることを意味します（負の相関）。

表　インターンシップの効果と総合評価の相関分析

インターンシップの効果	総合評価
インターンシップ研修を通して学生の就業意識が向上した	0.33
指導にあたった社員が成長した	**0.60**
大学や学生に自社の認知度を高められた	0.22
インターンシップ研修生を受け入れたことで職場が活性化した	**0.69**
４大学との交流が深化した	0.47
学生の意見や提案が職場や仕事の改善につながった	**0.53**
繁忙期の人員確保の役割を果たしている	0.25
来年度以降の新卒採用の基本指針作成に役立っている	0.06

注：数値は相関係数。

分析の結果、インターンシップの効果として、

「指導にあたった社員が成長した」

「インターンシップ研修生を受け入れたことで職場が活性化した」

「学生の意見や提案が職場や仕事の改善につながった」

に高い得点をつける受入先ほど、「インターンシップの総合評価」に高い点数をつけている傾向（正の相関）が見いだされました。インターンシップの受け入れは、組織内の人材育成、職場の活性化、職場・仕事改善に寄与する可能性が大いにあることが見て取れます。

受入企業・団体一覧（順不同）

1	愛建電工株式会社
2	有限会社愛進
3	ＮＰＯ法人Ｅｙｅｓ
4	特定非営利活動法人アジア・フィルム・ネットワーク
5	アビリティーセンター株式会社
6	介護老人保健施設アンビションうちこ園
7	今治市役所
8	今治造船株式会社
9	株式会社伊予鉄髙島屋
10	伊予鉄道株式会社
11	医療法人財団尚温会伊予病院
12	株式会社内子フレッシュパークからり
13	宇和島ケーブルテレビ株式会社
14	愛媛県
15	愛媛県司法書士会
16	財団法人愛媛県総合保健協会
17	愛媛県立とべ動物園
18	株式会社愛媛ＣＡＴＶ
19	特定非営利活動法人えひめ障害者ヘルパーセンター
20	国立大学法人愛媛大学
21	愛媛ダイハツ販売株式会社
22	愛媛トヨタ自動車株式会社
23	有限会社愛媛ヒアリングエイドえひめ補聴器センター
24	愛媛マンダリンパイレーツ球団株式会社
25	株式会社エフエム愛媛
26	岡本社労士事務所
27	株式会社オリム
28	有限会社オルネット
29	株式会社キャップ
30	霧の森（株式会社やまびこ）
31	こうち人づくり広域連合
32	特別養護老人ホームことぶき荘
33	認定こども園　小羊園
34	佐伯公認会計士事務所
35	西条市産業情報支援センター（株式会社西条産業情報支援センター）
36	佐川印刷株式会社
37	株式会社サニクリーン四国
38	株式会社ジェイアール四国アーキテクツ　森の国ホテル
39	四季彩農園
40	四国中央市役所
41	学校法人勝愛学園　勝愛幼稚園
42	ジョブカフェ愛work（愛媛県若年者就職支援センター）
43	株式会社ステージアップ
44	生活協同組合コープえひめ
45	摂陽明正株式会社
46	瀬戸内緑地株式会社
47	株式会社ダイキアクシス
48	株式会社大屋（ドラッグストアｍａｃ）
49	株式会社タカテツ
50	株式会社田窪工業所
51	田中商事株式会社
52	有限会社塚本イズムジャパン
53	株式会社テラマチ
54	株式会社テレビ愛媛
55	東京海上日動火災保険株式会社
56	社会福祉法人道真会
57	株式会社東洋印刷 ニンジニアネットワーク株式会社
58	トヨタカローラ愛媛株式会社
59	南海放送株式会社
60	新居浜医療生活協同組合
61	ＮＰＯ法人にいはま市民企画ノポック
62	新居浜市役所
63	有限会社能力開発システム研究所
64	特別養護老人ホームはかた寿園
65	浜田農園
66	株式会社フジ
67	有限会社二神塾
68	ベルグアース株式会社
69	社会福祉法人松山市社会福祉事業団　松山市久枝障害者生活介護事業所
70	財団法人松山市男女共同参画推進財団
71	松山市役所
72	松山総合開発株式会社　松山全日空ホテル
73	学校法人松山大学
74	松山ヤクルト販売株式会社
75	まなびーず応援団
76	株式会社マルナカ
77	株式会社三越松山店
78	株式会社ユイ・システム工房
79	株式会社リーガル
80	合資会社ワークショップco.松山
81	株式会社明星出版

２０１０年度計画

3月

3月9日（火）：2010年度事業計画説明会開催（企業・団体向け）
大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の事業計画説明と、
研修受入プログラム作りのポイント説明

4月

上旬：受入依頼状等を企業・団体に発送
インターンシップ研修生受入の可否及び
インターンシップ受入プログラム合同説明会参加の有無について照会

5月

5月7日（金）：受入可否・合同説明会参加可否回答締切
上記送付書類（アンケート等）の回答締め切り

6月

6月5日（土）：合同説明会開催（9：00−17：00）
6月28日（月）：各大学から企業・団体へインターンシップ研修申込書発送

7月

7月1日（木）～14日（水）：企業・団体の学生面接
学生の研修希望先での面接

8月～9月

インターンシップ研修

9月

上旬：研修先企業・団体にアンケート送付

11月

上旬：拡大懇談会開催

各大学インターンシップ連絡先

愛 媛 大 学

《教育学生支援部　就職支援課》
（担当／戒能）

〒790－8577　松山市文京町3番

ＴＥＬ　089－927－9164(直)
ＦＡＸ　089－927－9181

■http://www.ehime-u.ac.jp/

松 山 大 学

《教務部　教務課》
（担当／高橋・井上）

〒790－8578　松山市文京町4－2

ＴＥＬ　089－926－7137(直)
ＦＡＸ　089－923－8920

■http://www.matsuyama-u.ac.jp/

松山東雲女子大学
松山東雲短期大学

《学務部　就職進路支援課》
（担当／藤田）

〒790−8531　松山市桑原3丁目2−1

ＴＥＬ 089－913－2610(直)
ＦＡＸ 089－931－6402

■http://www.shinonome.ac.jp/

編集・発行／大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会

● 制　作／ＮＰＯ法人えひめ中小企業支援協会　〒791−8042　松山市南吉田町2821−4　ビズポート
ＴＥＬ 089−968−8802　ＦＡＸ 089−968−8872